

平成17年8月臨時議会

町長所信表明演述

去る7月31日執行の町長選挙におきまして、町民の多くのご支援により、二期目の町政を担当することになりました。大変光栄に存するとともに、その責務の重大さに身の引き締まる思いでございます。

このたびの選挙は、前回と同様に無競争となりました。これは、これまで進めてきた町づくりが、一定の評価をいただいているものと思いますが、今後とも、町民の意志をいただきながら、町政運営をしてまいります所存でございます。

二期目の町政運営は、去る3月議会で申し上げました施政方針演説と大きく変わってはいませんが、新しい4年間の始めにあたりその一端を申し上げます。

私は、今回の選挙にあたって、町づくりの基本目標として、

快適な環境づくり

児童と高齢者福祉の充実

家庭・学校・地域教育の充実

活力ある産業の振興

豊かな心と環境を未来へ

という5つの目標をお示しし、本町が進むべき21世紀のビジョンについて、具体的にお訴え申し上げたところでございます。

小さい町でなければできない、小さい町だからこそできる、町づくりを目指し、住民福祉の向上に取り組んでまいります所存であります。

自立のための町づくり

本町は、「自立・持続する町づくり」に取り組んでおります。

そのための条件である「民官協働」、「職員育成」、「行財政改革」、「広域連携」を一層推進していく必要があります。また、「森林・林業日本一」、「宿場

・販わいルネッサンス」、「地域協働システム構築」のプロジェクトSについても、重点的に取り組み、今後の道筋をつくってまいります。

現行の総合発展計画基本構想及び基本計画は、平成18年度までとなっておりますので、次期計画策定に向けて、遅滞なく準備を進めてまいりたいと考えております。

産業の振興

農業については、無農薬や無化学肥料の安全、安心な農業を推進してまいります。また、農地の集積や農作業受委託組織等の法人化による集落営農を推進し、新たな住田型集落営農の構築を進めてまいります。

林業については、木工団地を核とした地域林業システムが確立してまいりました。今後におきましては、システムの一層の充実に向け、川上分野である伐採・造林部門のより一層の強化を図るとともに、木質バイオマスエネルギーや森林認証の普及啓蒙を推進し、その成果が山元に還元されるよう努めてまいります。

企業誘致につきましては、新たな企業を呼び込むというのは経済情勢や交通アクセス面から苦戦をしておりますが、地場で起業ができるような環境づくりも視野に入れながら、空き工場対策を進めてまいります。

観光面においては、国道283号仙人峠道路の平成18年度供用開始による滝観洞への誘客増加が期待できるところであり、今後は、種山ヶ原を含め、町全体の観光のあり方などについて、具体的な検討をしてまいりたいと考えております。

保健福祉

医療と福祉は、本町の最大の課題であります。

県立病院改革基本プランによる県立住田病院の診療所化については、本町の地域医療の根幹に関わる重要な問題であり、関係機関等と連携を図りながら、町民が安心して暮らせる医療体制の確保に努力してまいります。

福祉につきましては、高齢者の町である特徴を生かし、高齢者一人ひとりが健康で、生きがいをもち、もてる力を発揮でき、地域の一員として活躍いただけるような体制づくりに努めながら、住田型福祉の創造を目指してまいります。

教育振興

教育の原点は家庭にあります。子供の社会性を身につけるのも家庭と地域であり、学校はその延長線で知識や技能を習得していく場であります。家庭・地域・学校の連携を深めた取り組みを推進するとともに、積極的に学習情報の提供を図ります。

県立高校の再編問題につきましては、署名や要望活動等により大幅な見直しが行われ、一定条件をクリアすれば住田高校が存続できる道が残されました。しかし、これも町内の生徒数や進学先の状況等を勘案すれば、大変厳しいものとなっております。

本町では、この問題が提起される以前から、新たな中等教育のあり方として中高一貫教育校の設置を県に提案してきたところでありますが、モデル校設置に向けた取り組みをより一層進めていく必要があると考えております。

民意の反映

財政状況が厳しくなればなるほど、財政運営は町民の意見を反映したものでなければなりません。広報紙等による財政状況等の積極的な情報提供に努めるとともに、町民みんなで政策決定することが重要であります。

そのため、政策の重要な部分では意見を交わし、町民が参加する町政、受益

と負担が均衡する町政の実現を目指します。

元気な役場・元気な地域

これまで申し述べた施策を実現していくためには、役場職員と役場が元気であることが必須条件であります。役場の組織と職員の活力を引き出し、地域の方々の協働を得ることが、町の活力を呼び起こすものと考えております。地域の活力を高め、町が元気になるよう全力で取り組んでまいります。

結びに

平成17年度は、昭和30年に住田町が誕生して半世紀、50年の大きな節目の年であります。

長年の懸案でありました津付ダムは、ようやく事業着手がなされようとしております。また、木屑焚きボイラーの蒸気利用の発電施設や熱利用の実証ハウスを整備し、農林業の振興につなげていきたいと考えております。さらに、五葉地区での簡易水道施設の整備や鶏糞の炭化施設の整備など、新たな事業の展開も始まっております。

これまで積み上げてきた成果を滞らせることなく、なお一層前進してまいる所存であります。

「所宝惟賢」(宝とする所、^{これ}惟賢なり)

真の宝とすべきものは、民衆誰しもが持っている英知なのだ。

武家の時代に町人の能力と自覚を信じ、町火消しを江戸消防の中核にまで育て上げた町奉行、大岡越前の言葉であります。

町民みんなと手を携え、知恵と力を結集し、共に歩んでまいりますので、議会の皆様のご支援、ご指導をお願い申し上げ、二期目の町政を担う所信といたします。